

都市再生整備計画 事後評価シート
総社駅南地区(第2期)

平成28年2月

岡山県総社市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岡山県		市町村名	総社市		地区名	総社駅南地区(第2期)			面積	90.0ha		
交付期間	平成23年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	1,305百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(真壁支線3156号道)、公園(石原地内街区公園)、高質空間形成施設(照明施設等)、土地区画整理事業(総社駅南土地区画整理事業)										
		提案事業	地域創造支援事業(総社駅南土地区画整理事業)、事業活用調査(事業効果分析調査)、まちづくり活動推進事業(住民が主体となった緑化支援等)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	高質空間形成施設(照明施設等)	削除/追加の理由			関連する道路整備の遅れから、計画期間内に実施することが困難となったため、本事業を削除。次年度以降に別事業で実施						
		提案事業	なし	—			—						
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(石原西地内街区公園、三輪地内街区公園)	削除/追加の理由			土地区画整理事業の早期進捗により、仮設住宅用地(暫定利用)としての需要がなくなったことから、土地区画整理事業の事業計画に基づき本事業を追加						
		提案事業	なし	—			—						
交付期間の変更	当初	平成23年度～平成27年度	変更による事業、指標、数値目標への影響			—							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	定住人口	人	2,049	H21	2,460	H27	モニタリング	評価値	○	あり	土地区画整理事業等による都市基盤整備や歩行者軸等の整備により、安全・安心・快適な住環境が創出され、住宅地としての魅力が高まり、定住人口が増加した。	平成28年5月
	指標2	交通ネットワークの満足度	5段階評価の平均値	3.8	H22	4.2	H27		3.9	△	あり	相対的な満足度は高まったものの、整形な道路網が整備されたことで、大型車両の進入や交通量の増加、通過交通のスピード超過等の課題が発生している。	
	指標3	歩行者空間の満足度	5段階評価の平均値	3.6	H22	4.0	H27		4.0	○	あり	地区内外の主要施設を結ぶ歩行者軸の整備や、住民主体の緑化活動により色彩豊かな道路景観が創出されたことで、「歩行者空間の安全性・快適性」に係る満足度が高まった。	
	指標4	地域住民間の交流の充足度	%	44	H22	51	H27		96	○	あり	街区公園(3カ所)が整備されることに対して、地域住民間の更なる交流促進への期待が著しく高まった。	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	交通ネットワークの充足度	%	9.9	H22	/		モニタリング	73.8	/	/	・土地区画整理事業等により、狭隘道路の拡幅や整然とした道路網が整備されたことで「交通ネットワークの充足度」に係る評価が著しく高まった。	
4)定性的な効果発現状況	土地区画整理事業をはじめとした都市基盤整備による良好な居住環境の創出やまちづくり活動に対する継続的な支援により、地域住民のまちづくりに対する意識や関心が高まっている。その結果、住民主体の緑化活動等への参加者が増加し、地域コミュニティの活性化に繋がっている。												
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等								
	モニタリング	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた		—								
	住民参加プロセス	街区公園の設計に係る意見交換会	都市再生整備計画に記載し、実施できた		今回の取組を通じて高まった市民のまちづくりへの意識や関心を住民主体の維持管理に繋げていく。								
持続的なまちづくり体制の構築	自主防災活動 公共空間の緑化活動	都市再生整備計画に記載し、実施できた		住民主体の地域活動やまちづくり活動を積極的に推進・支援していく。									

様式2-2 地区の概要

総社駅南地区(第2期)(岡山県総社市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 いつまでも住み続けられる利便性の高い魅力的な定住環境の整備 目標1 公共施設の整備推進による安全で快適な市街地環境の整備 目標2 人が集い地域コミュニティを育む市街地環境の整備	定住人口	単位:人	2,049	H21	2,460	H27	2,496	H27
	交通ネットワークの満足度	単位:5段階評価の平均点	3.8	H22	4.2	H27	3.9	H27
	歩行者空間の満足度	単位:5段階評価の平均点	3.6	H22	4.0	H27	4.0	H27
	地域住民間の交流の充足度	単位:%	44	H22	51	H27	96	H27

① 真壁支線3156号道(基幹事業:道路)

- ・JR総社駅と地区を結ぶ安全で快適な歩行者軸等の整備

整備イメージ

JR総社駅

総社駅南地区(第2期) A=90.0ha

凡例

- 土地区画整理施行区域
- 整備済の道路
- 区画道路(他事業整備)

② 石原・石原西・三輪地内街区公園(基幹事業:公園)

- ・地域の身近な憩いの空間、災害時の避難場所となる街区公園の整備

④ 総社駅南土地区画整理事業(提案事業:地域創造支援事業)

- ・常盤小学校のグラウンドの拡張(学校行事や地域行事の場、避難場所としての機能強化)

③ 総社駅南土地区画整理事業(基幹事業:土地区画整理事業)

- ・既存集落周辺を中心とした区画道路の整備

狭い道路の整備により、市街地の安全性・快適性が向上しています。

⑤ 住民主体の緑化活動(提案事業:まちづくり活動推進事業)

- ・地域住民が主体となった緑化活動の支援

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業の推進により、既存集落部の生活道路が改善され、安全性・快適性が向上した。 ・一方で、整然な道路網が整備されたことで、一部の路線で大型車両の進入や交通量の増加、通過交通のスピード超過等の問題が生じており、地区内での交通事故件数が増加傾向にある。 ・街区公園(3カ所)の整備により、地域住民の身近な憩いの場、交流の場が創出された。 ・土地区画整理事業と一体となった自転車・歩行者動線の整備により、JR総社駅へのアクセス性が高まった。 ・良好な居住環境の創出に伴い定住人口が増加する一方で、新旧世帯の混在(若い世帯と高齢世帯の混在)によるコミュニティの二極化が顕在化しつつある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・快適な道路環境を維持・保全していくため、必要に応じて地域独自の交通ルール等の導入を検討する他、交通安全に係る意識啓発等を支援する。 ・地域が主体となった街区公園の維持・管理体制の構築と、持続的な活動を支援する。 ・自転車・歩行者空間の日常的な維持・管理や緑化活動など、地域住民によるまちづくり活動を積極的に支援し、緑と潤いのある快適な自転車・歩行者空間を創出する。 ・良好な地域コミュニティを維持するため、新旧住民の交流を促す様々な取組を支援する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- ~~添付様式3-① モニタリングの実施状況~~
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- ~~添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見~~
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- ~~添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)~~

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	真壁支線3156号線	94	L=790m	94	L=790m	—	—		●
公園	石原地内街区公園	40	A=1,500㎡	20	A=1,500㎡	・事業内容の精査により事業費を削減。	・影響なし。		●
	石原西地内街区公園	—	—	22	A=2,700㎡	・土地区画整理事業の早期進捗により、仮設住宅用地(暫定利用)としての需要がなくなったことから、土地区画整理事業の事業計画に基づき本事業を追加。	・公園整備の計画は以前から周知されている他、区画整理事業等が予定通り進捗していることから、影響は軽微と考え、数値目標は変更しない。		●
	三輪地内街区公園	—	—	12	A=1,500㎡	・土地区画整理事業の早期進捗により、仮設住宅用地(暫定利用)としての需要がなくなったことから、土地区画整理事業の事業計画に基づき本事業を追加。	・公園整備の計画は以前から周知されている他、区画整理事業等が予定通り進捗していることから、影響は軽微と考え、数値目標は変更しない。		●
古都及び緑地 保全事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利用 システム									
地域生活基盤 施設									
高質空間形成 施設	照明施設等	10	10基	—	—	・関連する道路整備の遅れから、計画期間内に実施することが困難となったため、本事業を削除。次年度以降に別事業で実施。	・道路事業や区画整理整備等と一体となって効果を発現するもので、これらの事業が予定通り進捗していることから、影響は軽微と考え、数値目標は変更しない。	—	—
高次都市施設									
既存建造物活用 事業									
土地区画整理 事業	総社駅南土地区画整理事業	806	52.2ha	806	52.2ha	—	—		●
市街地再開発 事業									
住宅街区整備 事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備促進事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度		基準 年度		基準 年度	目標 年度			あり	なし			
指標1	定住人口	人	平成27年4月1日時点における住民基本台帳の地区内人口と、フォローアップ時(平成23年4月)等、過去5年間の地区内人口の傾向から、地区内定住人口を推計した。	1,676	H16	2,049	H21	2,460	H27	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	2,496	事後評価		
指標2	交通ネットワークの満足度	5段階評価の平均点	地域住民を対象としたアンケート調査を実施し、「現在の総社駅南地区内の交通ネットワークの快適性・安全性」に関する満足度を5段階で評価してもらい、その平均点を評価値とした。	—	—	3.8	H22	4.2	H27	モニタリング		モニタリング			●
										事後評価	確定見込み ●	3.9	事後評価		
指標3	歩行者空間の満足度	5段階評価の平均点	地域住民を対象としたアンケート調査を実施し、「現在の総社駅南地区内の通学路や歩行者空間の安全性・快適性」に関する満足度を5段階で評価してもらい、その平均点を評価値とした。	—	—	3.6	H22	4.0	H27	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	4.0	事後評価		
指標4	地域住民間の交流の充足度	%	地域住民を対象としたアンケート調査を実施し、「地域住民の憩いの場となる公園が整備されることで、地域住民の交流が促進されるか」に関して、「そう思う」、「どちらともいえない」、「そう思わない」の3段階で評価してもらい、「そう思わない」を除いた割合を評価値とした。	—	—	44	H22	51	H27	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	96	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	土地区画整理事業による住宅基盤の整備や、街区公園、歩行者軸等の整備により、安全・安心・快適な住環境が創出され、住宅地としての魅力が高まり、目標を達成することができた。	—
指標2	都市基盤が整備されたことで、地区内の交通ネットワークに係る住民の満足度は高まったが、一方で、大型車両の進入や交通量の増加、通過交通のスピード超過等の新たな課題が発生し、目標の達成には至らなかった。評価値の状況から、1年以内の達成見込みも困難と考えられる。	—
指標3	地区内外の主要施設を結ぶ歩行者軸の整備や、住民主体の緑化活動により色彩豊かな道路景観が創出されたことで、「歩行者空間の安全性・快適性」に係る満足度が高まり、目標を達成することができた。	—
指標4	住民にとって、より身近な公園となる街区公園(3カ所)が整備されることに対して、地域住民間の更なる交流促進への期待が著しく高まり、目標を達成することができた。	—

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度		基準年度				
その他の数値指標1	交通ネットワークの充足度	%	—	—	9.9	H22	モニタリング		指標2「交通ネットワークの満足度」が目標を達成していないため、本指標により、事業の効果を検証。 道路整備の充足度に係る評価により、地域の交通ネットワークに係る満足度の補足説明をする。	—
							事後評価	確定見込み ●		
その他の数値指標2							事後評価	確定見込み		
							モニタリング			
その他の数値指標3							事後評価	確定見込み		
							モニタリング			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

土地区画整理事業をはじめとした都市基盤整備による良好な居住環境の創出やまちづくり活動に対する継続的な支援により、地域住民のまちづくりに対する意識や関心が高まっている。その結果、住民主体の緑化活動等への参加者が増加し、地域コミュニティの活性化に繋がっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した	—	—
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
街区公園の計画に係る意見交換会	予定どおり実施した	【実施頻度】 計3回(各町内会) 【実施時期】 平成26年度～平成27年度 【実施結果】 地区内に整備する街区公園(石原地内公園:1,500㎡、石原西地内公園:2,700㎡、三輪地内公園:1,500㎡)の整備に向けて、関係自治会の役員会等を中心に地域の要望を整理して、計画に反映した。	地域が主体となった街区公園の維持・管理体制の構築と、持続的な活動を支援する。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
自主防災活動(関係自治会の自主防災組織)	予定どおり実施した ●	煙の中を逃げる訓練や防災関連施設の使い方、応急対応(毛布やシャツ等)を利用して担架を作る等)の方法等に関する講習など、地域主体の防災訓練が継続的に実施されている。	自主防災組織	住民主体の地域活動を積極的に推進・支援する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
公共空間の緑化活動(関係自治会)	予定どおり実施した ●	歩行者専用道路内の緑化スペースにおいて、地域住民が主体となった緑化活動が継続的に実施されている。	関係自治会	自転車・歩行者空間の日常的な維持・管理や緑化活動など、地域住民によるまちづくり活動を積極的に支援し、緑と潤いのある快適な自転車・歩行者空間を創出する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価庁内会議	関係各課長(都市計画課、政策調整課、土木課、地域応援課)	平成27年12月7日	都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標3	指標4	その他の数値指標1				
指標名		定住人口	歩行者空間の満足度	地域住民間の交流の充足度	交通ネットワークの充足度				
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	道路(真壁支線3156号道)	◎	・JR総社駅に隣接する良好な立地条件に加え、土地区画整理事業等による住宅基盤の整備や、街区公園、歩行者軸等の整備により、安全・安心・快適な住環境が創出され、住宅地としての魅力・付加価値が高まり、定住人口が増加した。	◎	・地区内の主要施設やJR総社駅とネットワークする歩行者軸が整備された他、住民主体の緑化活動により色彩豊かな道路景観が創出されたことで、「歩行者空間の安全性・快適性」に係る満足度が高まった。	—	・常盤公園の利用状況から、身近な公園となる街区公園(3カ所)が整備されることで、地域住民間の交流が更に促進されることへの期待が高まった。 ・常盤公園と一体となった石原西地内公園の整備も、多様な交流の期待を高めている。	◎	・土地区画整理事業等により、狭隘道路の拡幅や整然とした道路網が整備されたことで「交通ネットワークの充足度」に係る評価が著しく高まった。
	公園(石原地内街区公園)	○		—		○			
	公園(石原西地内街区公園)	○		—		○			
	公園(三輪地内街区公園)	○		—		○			
	高質空間形成施設(照明施設等)	—		△		—			
	土地区画整理事業(総社駅南地区)	◎		—		—			
提案事業	地域創造支援事業:土地区画整理事業(総社駅南地区)	○	—	—	—	—			
	まちづくり活動推進事業:住民が主体となった緑化支援等	○	○	○	—	—			
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標3	指標4	その他の数値指標1
	・新旧住民が融合した良好なコミュニティの形成に係る支援を行い、より付加価値の高い住環境を創出する。	・住民主体の緑化活動に係る継続的な支援を行うと共に、地域と一体となって、活動の輪を広げる取組を展開する。	・地域主体の維持管理体制を構築することで、地域住民間の交流の機会を創出する他、このような活動を通じて地域への愛着を醸成する。	・地域住民や関係団体等と一体となって、交通ネットワークの安全性・快適性の向上に向けたソフトな取組を展開する。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2												
指標名		交通ネットワークの満足度												
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	道路(真壁支線3156号道)	△	・相対的な満足度は高まったものの、住民の一部からは、整形な道路網が整備されたことによる大型車両の進入や交通量の増加、通過交通のスピード超過等に対する不安が指摘されており、これらへの対応が必要である。	IV										
	公園(石原地内街区公園)	—												
	公園(石原西地内街区公園)	—												
	公園(三輪地内街区公園)	—												
	高質空間形成施設(照明施設等)	—												
	土地区画整理事業(総社駅南地区)	△												
提案事業	地域創造支援事業:土地区画整理事業(総社駅南地区)	—												
	まちづくり活動推進事業:住民が主体となった緑化支援等	—												
関連事業														

※目標未達成への影響度

- ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	・地域住民や関係団体等と一体となって、交通ネットワークの安全性・快適性の向上に向けたソフトな取組を展開する。			
------------------	--------------------------------------------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価庁内会議	関係各課長(都市計画課、政策調整課、土木課、地域応援課)	平成27年12月7日	都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
一部の既存集落部において、 基盤整備の遅れから、十分な 市街地環境が整っていない。	土地区画整理事業の推進により、既存集落部の生活道 路が改善され、安全性・快適性が向上した。	—	<ul style="list-style-type: none"> ・整然な道路網が整備されたことで、一部の路線で大型車両の進入や交通量の増加、通過交通のスピード超過等の問題が生じており、地区内での交通事故件数が増加傾向(H22年(39件)→H27年(43件)、H26年(51件)が最大)にある。 ・良好な居住環境の創出に伴い定住人口が増加する一方で、新旧世帯の混在(若い世帯と高齢世帯の混在)によるコミュニティの二極化が顕在化しつつある。
地域住民の身近な憩いの場、 交流の場が不足している。	街区公園(3カ所)の整備により、地域住民の身近な憩 いの場、交流の場が創出された。	—	
地区内外の主要施設を結ぶ 安全な自転車・歩行者軸が不 足している。	土地区画整理事業と一体となった自転車・歩行者動線 の整備により、JR総社駅へのアクセス性が高まった。	—	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	安全・快適な道路環境の維持・保全	安全・快適な道路環境を維持・保全していくため、必要に応じて地域独自の交通ルール等の導入を検討する他、交通安全に係る意識啓発等を支援する。	・交通ルールや規制の導入に関する検討・支援 ・交通安全に係る意識啓発や教育に関する支援
	街区公園の維持・管理	地域が主体となった街区公園の維持・管理体制の構築と、持続的な活動を支援する。	・官民連携による維持・管理体制の構築 ・まちづくり活動(緑化活動等)に関する運営支援
	快適な自転車・歩行者空間の創出	自転車・歩行者空間の日常的な維持・管理や緑化活動など、地域住民によるまちづくり活動を積極的に支援し、緑と潤いのある快適な自転車・歩行者空間を創出する。	・まちづくり活動(公共施設の維持・管理や緑化活動等)に関する運営支援

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	大型車の侵入や通過交通のスピード超過等による危険な交通状況の解消	安全・快適な道路環境を維持・保全していくため、必要に応じて地域独自の交通ルール等の導入を検討する他、交通安全に係る意識啓発等を支援する。	・交通ルールや規制の導入に関する検討・支援 ・交通安全に係る意識啓発や教育に関する支援
	良好な地域コミュニティの維持	良好な地域コミュニティを維持するため、新旧住民の交流を促す様々な取組を支援する。	・新旧住民の交流促進に向けた具体的な取組に関する検討・支援
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	定住人口	人	2,049	H21	2,460	H27	確定	●	2,496	○	あり	平成28年5月	平成28年4月1日時点における住民基本台帳の地区内人口を集計し、確定値とする。	
指標2	交通ネットワークの満足度	5段階評価の平均点	3.8	H22	4.2	H27	確定	●	3.9	△	あり			
指標3	歩行者空間の満足度	5段階評価の平均点	3.6	H22	4.0	H27	確定	●	4.0	○	あり			
指標4	地域住民間の交流の充足度	%	44	H22	51	H27	確定	●	96	○	あり			
指標5							確定				あり			
その他の数値指標1	交通ネットワークの充足度	%	9.9	H22			確定	●	73.8					
その他の数値指標2							確定							
その他の数値指標3							確定							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・街区公園の計画に係る意見交換会等を実施したことで、地域住民の事業に対する関心や公園に対する愛着が生まれ、地域が主体となった継続的な維持・管理が期待できる。 ・住民主体の緑化活動に対する支援を通じて、住民のまちづくり活動に対する意識が高まった。	地域のまちづくりに対する住民の意識や主体性を高める取り組みとして、計画段階から住民参加のプロセスを踏むことは有効である。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・1期計画の課題や今後のまちづくり方策を踏まえた事業を展開したことで、市街地環境に対する住民の満足度が高まった。	PDCAサイクルによる継続的なまちづくりは有効である。
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成27年12月21日 ～平成28年1月12日	平成27年12月21日 ～平成28年1月12日	担当課への電話、FAX、郵送、電子メール等	都市計画課 (都市再生整備計画事業担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	広報に、市のホームページ及び担当課窓口で原案を公表している旨を掲載	平成27年12月21日発行 広報そうじゃ1月号	平成27年12月21日 ～平成28年1月12日		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	都市計画課窓口での閲覧	平成27年12月21日 ～平成28年1月12日	平成27年12月21日 ～平成28年1月12日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	山田 孝延 岡山県立大学名誉教授	平成28年2月17日	都市計画課 (都市再生整備計画事業担当課)	総社市まちづくり交付金 評価委員会設置要領	独自に設置
その他の委員	上三輪連合町内会 会長 石原自治会 会長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし
	成果の評価	・アンケート(住民意識)に基づく評価に加え、客観的なデータを整理・分析することで、評価の信憑性が高まる。地域の安全性に関しては交通事故等の発生件数、また、都市基盤の充足・満足度に関しては、道路率や歩道の整備率などのデータ整理・分析が効果的である。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・都市基盤は十分に整備されているものの、交通安全面での不安がある。先のデータ等を用いて客観的に説明することが必要である。 ・自転車の運転モラルが不足していることも大きな問題である。
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・定住人口が増加する一方で、新旧世帯の混在(若い世帯と高齢世帯の混在)によるコミュニティの二極化が顕在化しつつある。高齢化の進展も想定した上で、新旧住民の交流促進や、若年・高齢両世帯にとって暮らしやすい環境を整えていくことが必要である。一部の街区公園は、地域の意見を反映して高齢者を対象とした公園としている。 ・自転車の運転モラルや交通ルール等に係る啓発・教育が必要である。 ・交通ルールや規制の導入に関しては、市・警察・地域が一体となって取組を進めている。
	フォローアップ	・一部の事業が完了していない状況ではあるが、アンケート関連の指標に関しては、完成形を示して実施したことによる信憑性や、回答に係る市民への負担等を考慮して、今回の計測値を確定値とすることについて確認した。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると確認された。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第1回変更)

そうじゃえきなん
総社駅南地区

おかやま そうじゃ
岡山県 総社市

平成27年7月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	おokayama 岡山県	市町村名	そうじゃ 総社市	地区名	そうじゃえきなん 総社駅南地区	面積	90 ha
計画期間	平成	23	年度	～	平成	27	年度
交付期間	平成	23	年度	～	平成	27	年度

目標 大目標 ：いつまでも住み続けられる利便性の高い魅力的な定住環境の整備 目標1 ：公共施設の整備推進による安全で快適な市街地環境の整備 目標2 ：人が集い地域コミュニティを育む市街地環境の整備

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <p>本地区は、JR総社駅から南へ約1km、総社市中心市街地の南側に隣接して位置しており、地区の西側には、常盤小学校・常盤幼稚園・中央保育所、南側には総社南高校や総社運動公園などの施設が立地する住宅市街地としての利便性に富んだ地区である。</p> <p>このような立地特性を活かすため、平成3年度からは、総社駅南土地区画整理事業(52.2ha)に取り組んでおり、骨格道路や生活道路、歩行者専用道路等の整備によって、地区の定住環境が徐々に整いつつある。</p> <p>また、平成18年度からは、土地区画整理事業と一体となって、快適で災害に強い市街地環境を整備すべく、総社駅南地区まちづくり交付金事業(現在は社会資本整備総合交付金)に取り組んでおり、防災公園(常盤公園)や、防災関連施設(耐震性貯水槽、防火水槽等)等の整備によって、地区の防災環境が飛躍的に高まり、本地区の新たな魅力を創出している。</p> <p>さらに、このような環境整備や、住民との協働によるまちづくりの推進により、地域住民の防災に関する意識が高まり、自主防災組織などの活動も積極的に行われている。</p> <p>しかし、地域の事情や社会経済情勢等の影響から、既存集落部等における事業の進捗が遅れており、一部において安全性や快適性に乏しい劣悪な環境が残っている他、地域の身近な憩いの場、交流の場となる街区公園の整備なども進んでおらず、一日も早いこれらの整備・改善が求められている。</p> <p>一方、近年の環境保全・健康志向の高まりや、文教施設をはじめとする主要な施設が多く立地している状況から、これらの施設へ安全・快適にアクセスできる自転車・歩行者軸の整備が求められており、これらの実現によって、より利便性の高い魅力的な市街地環境を創出していくことが必要である。</p>
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業等の推進により、安全・快適な市街地環境が整いつつあるが、一部の既存集落部等では、公共施設整備の遅れから十分な市街地環境が整っていない。 ・これらの部分を除いて道路ネットワークとしての機能性と安全性は確保されつつあるが、夜間の通行や歩行に対して、危険が生じている箇所がある。 ・近隣公園としての常盤公園は整備されたが、地域住民のより身近な憩いの場、新旧住民が融合した地域コミュニティを醸成する場が不足している。 ・文教施設をはじめとする地区内外の主要施設へのアクセスについて、一部で自動車と自転車・歩行者の錯綜が見られる。
将来ビジョン(中長期) <p>総社市都市計画マスタープランにおいて、本地区は住宅市街地ゾーンとして位置づけられており、土地区画整理事業と併せて地域防災施設、公園、道路等の公共施設の整備を図り、快適で災害に強い市街地環境の整備を推進するとされている。この他マスタープランでは、市街地整備の方針として、「生活道路は幅員4.0m以上で改良を図ることを基本とする」、「歩行者や自転車の安全対策の充実に努めゆとりある道づくりを進める」、「土地区画整理事業等の市街地整備とあわせて身近な公園・緑地の確保に努める」、「土地区画整理事業などによる市街地整備の推進により、災害に強いまちづくりを進める」、「防災拠点の整備や避難地となるオープンスペースの確保を図る」ことなどが示されている。</p>

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
定住人口	人	「住民基本台帳」における総社駅南地区内の定住人口	近年、市の人口増加が停滞している中で、居住環境の整備を進めることにより総社駅南地区内の定住人口の増加を図る。	2,049	H21	2,460	H27
交通ネットワークの満足度	5段階評価の平均点	住民アンケート調査(設問:現在の総社駅南地区内の交通ネットワークは快適で安全である)における5段階評価の平均点	既存集落部における生活道路等の整備により、地域住民が満足できる安全で快適な交通ネットワークの実現を目指す。	3.8	H22	4.2	H27
歩行者空間の満足度	5段階評価の平均点	住民アンケート調査(設問:現在の総社駅南地区内の通学路や歩行者空間は快適である)における5段階評価の平均点	文教施設をはじめとする地区内の主要施設を安全・快適な自転車・歩行者動線で結ぶことにより、利便性の高い、人にやさしい安全で快適な市街地環境の実現を目指す。	3.6	H22	4.0	H27
地域住民間の交流の充足度	%	住民アンケート調査(設問:公園が整備されたことにより、地域住民の交流が促進された)における「そう思わない」以外の割合	街区公園等の地域住民の身近な憩いの空間、交流の場の整備により、人が集いコミュニティを育む市街地環境の実現を目指す。	44%	H22	51%	H27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1: 公共施設の整備推進による安全で快適な市街地環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路の整備にあわせて、既存集落部等における区画道路の整備を促進することで、緊急車両の進入が困難な狭隘道路を解消し、安全で安心な居住環境を創出する。 ・文教施設をはじめとする地区内の主要施設を安全・快適な自転車・歩行者動線で結ぶことにより、利便性の高い、人にやさしい安全で快適な市街地環境を創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路（基幹事業／真壁支線3156号道・市） ・土地区画整理事業（基幹事業／総社駅南土地区画整理事業・市） ・地域創造支援事業（提案事業／総社駅南土地区画整理事業・市単独費）
<p>整備方針2: 人が集い地域コミュニティを育む市街地環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の身近な憩いの空間、災害時の避難場所となる街区公園の整備を促進することにより、安全で快適な居住環境を創出する。 ・常盤小学校のグランド用地を整備することで、学校行事や地域行事の活性化を促進する。 ・地域住民が主体となった公共空間等での緑化活動などについて支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園（基幹事業／石原地内街区公園、石原西地内街区公園、三輪地内街区公園・市） ・地域創造支援事業（提案事業／総社駅南土地区画整理事業・市単独費） ・まちづくり活動推進事業（提案事業／住民が主体となった緑化支援等・市）
<p>その他</p>	

